

特集 学生の研究活動報告－国内学会大会・国際会議参加記 27

ASEAN グローバルプログラム に参加して

前川 順 登

Naoto MAEGAWA

環境ソリューション工学科 2年

1. はじめに

2017年8月29日から9月7日にかけてベトナムのハノイ、シンガポールにおいて10日間の海外研修、ASEAN グローバルプログラムに参加した。今回のこのプログラムの目的は、海外経験を持つことで考え方や、ものの見方を広げることであった。今回の研修の日程を表1に示す。

表 研修日程

8月29日(火)	ベトナム入国(ハノイ) オリエンテーション(ホテル)
8月30日(水)	企業訪問(3企業)
8月31日(木) 9月1日(金)	ハノイ工業大学において 現地学生とのPBLおよび発表
9月2日(土)	博物館見学等、自由時間
9月3日(日)	ベトナム出国、シンガポール入国 博物館見学等
9月4日(月)	南洋理工大学において キャンパスプログラム
9月5日(火)	トークセッション(2名) ビジネスパーソンとの交流会
9月6日(水)	自由時間(オプションツアー) シンガポール出国
9月7日(木)	帰国

2. 志望動機

今回、私がASEAN グローバルプログラムに参加した理由は、まず海外に自分の足で行って、自分の耳で聞いて、自分の目で見たいと思ったからである。国々の文化、環境や価値観の違いを感じたいと思っていたからである。私は、企業については、興味が無くさほど重要視をしていなかったが、しかし

そういったものに自分から触れて知ることによって大きな刺激になると思った。私は海外経験もなく、今回の研修で海外へ行くのが初めてであり、学生のうちに経験しておきたいと思ったことも志望動機の一つであった。

3. 研修内容

今回のプログラムでは、ベトナムのハノイで日系企業である Takagi Vietnam での工場見学、Rikkeisoft と NTQ の見学と交流会などのベトナム企業訪問に加え、ハノイ工業大学の学生との交流と同大学生徒と共に行う PBL と成果発表を行った。これに加え、シンガポールでは南洋理工大学のキャンパス見学、加藤氏と築野氏の講演会、若手ビジネスパーソンとの交流会といったプログラムを経験した。

4. Takagi Vietnam

このプログラムの中で、私は特に日系企業を訪問したことについて報告する。それはベトナムでの最初の研修である Takagi Vietnam の見学だった。

最初に久保代表をはじめとして工場長等から会社説明が行われた。タカギグループは、洗浄用ホース、蛇口、シャワーなどのトップブランドである。日本の私たちの日常生活にとっても馴染みのあるものが海を越えて別の国から製造され輸入されていることに改めて世界規模の事業の大きさを感じた。社員数は、ベトナム人が250名と管理職の日本人が7名とのことであったが、女性83%、男性17%となっており、特に女性率の大きさが目立っていた。ベトナムの女性は、働くことに対してとても意欲的であることがわかった。ベトナムの浄水事情は、日本と違い発達が遅れており、大きな課題となっているため、それらを改善するためのベトナムでの浄水事業の企画・研究も行っているとの説明を聞いた。企業が、国及び地域への貢献もしているのだと思った。

工場内の見学もさせていただいた。案内と共に工場の風景を見てみると、テープで区別された床、精密作業から組み立て作業などアルバイトでいって

た親の働く工場にとてもよく似ており、ベトナムにあるにもかかわらず、日系企業のためか日本と違いは無いように感じた。しかし、箱詰めしたものの三度目の製品チェックを行っているというところに大きな違いを感じた。これは、賃金の高い日本の雇用事情ではできない作業であり、ベトナムの安い賃金で雇っているからこそできる入念な作業であると教えていただいた。作業着にも違いが見られ、特に女性の制服は、従来のものよりスリムなスタイルでベトナムの好みに合わせて作られていることがわかった。

見学後の質疑応答では、「なぜベトナムに工場を置いたのか」という質問に対し、それは、ベトナム人の国民性、人柄であると答えて頂いた。ベトナム人は手先が器用で根性があり、昔の日本人に近いものを感じるという説明もあり、国柄なども見極めること重要だと感じた。

今後の目標について聞いたところ、将来的にベトナム人だけで工場経営出来るようにすることであった。そのために現在は、ベトナム人がマネージャーなどの管理職につけるように人材育成が行われているとの説明があった。しかし、特にベトナム人は、初任給を重要視していることがあり、元にいた職場より高い職があるとすぐに転職してしまうなど、言



写真 学生からの質問風景

葉や価値観の違いが大きな壁となっており、日本以上に入念なコミュニケーションが行っているとのことだった。それでもこの工場では、副工場をベトナム人のドーさんに任せているとのこと、結果もできているとの説明があった。

久保代表からも立ち上げ時の話などを伺え、多くの課題があり苦労があった、またそれは今も続いていることが伝わってきた。それでも何も無い場所に基礎を作ろうとしていることは、とても尊敬できることだと私は強く感じた。

5. おわりに

今回の海外研修は、とても大きな刺激になり、産加することができて良かった。研修中に質疑応答の場面で一回でも自分の質問ができたことが良かった。しかし、それ以上に自分の力不足を思い知らされる場面が多くあった。PBLのグループ活動では、自分の意見を出さず、アンケートをとる際もうまく伝えることができなかった。語学力の部分では、行き詰ってうまく伝えられず、言おうとしたことがすぐに飛んでしまうことがあった。コミュニケーションを取れず、伝えられないことがこれほどにももどかしく、悔しくもあり、苦しいものであると思い知らされた。それでもこの経験は、今後これからの向上心に大きく繋がると思っている。ビジネスパーソンの方からの話を聞いて海外で働いてみたいとより強く思えるようになった。企業に対しても深い関心をもつようになった。今回で学べたことは、「現代社会をより広い視野でみて、傾向や流れを読む」ことが重要だと感じた。海外を自分の感覚で感じることでできた。今回の研修の経験を生かし、自分の目標をより具体的にできるように頑張っていきたいと思う。